



埼玉県立浦和西高等学校
Urawanishi High School

発行日 令和4年4月20日
学校通信 ~ 西高は今 ~
<http://www.urawanishi-h.spec.ed.jp>

あいさつ

校長 利根川 典子

令和4年度当初人事異動により21名（内非常勤6名）の教職員が漸着任し、また、4月8日には359名の新入生を迎え、令和4年度がスタートしました。今年度も生徒の希望進路の実現とともに、コロナ禍により様々な制限がある中ではありますが、生徒・教職員の知恵と工夫を結集し、できる限りの学校行事を実施し、生徒の人的成長を促してまいりたいと思います。

さて、時代の変化は著しく、急速なグローバル化とともに、VUCAの時代、SOCIETY5.0、Web3.0など聞き慣れない言葉が飛び交う新しい時代の幕開けとなりました。SDGsへの対応に加えて、緊迫した世界情勢や新型コロナウイルス感染症の蔓延など私たちの周りには、私たちのどの世代も解決したことの無い課題が山積しています。こうした地球規模の課題に私たちは力を合わせて立ち向かっていかなければなりません。特に次代を担う生徒たちには、想像力・創造力を働かせ、柔軟な頭で考え課題解決に向けて力を発揮することが期待されています。

こうした時代には、思考力、判断力、応用力、情報編集力を駆使し、他者と協働して解決していく力が必要とされます。まさに「西高力」と呼んでいる「自ら考え、課題を見つけ、それを解決する力」です。本校では、引き続き「確かで高度な学力」「たくましく健やかな心身」「信頼される人間力」とともに、「西高力」の育成に取り組んでまいります。

今年度も「進化」し続ける西高として、西高をさらに魅力ある学校へと前進させるべく、教職員の力を結集して全力で取り組んでまいります。今年度もご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



令和4年度始動

1 着任式・始業式・入学式

4月8日（金）、着任式・始業式をリモート配信で行いました。校長講話では「未見の我」という言葉について紹介しました。これは、江戸時代の幕末動乱期に活躍した吉田松陰が「松下村塾」において、明治維新を打ち立てた多数の門下生に対して、叱咤激励した言葉とされています。



『未だ、見たことのなかった自分を目指しなさい。心は熱く、一生に一度くらい、本気でやってみなさい。必ず達成します。運命を造りなさい。』

生徒の皆さんには、自分でもまだ気付いていない素晴らしい資質・能力が備わっています。「無理だ」と自分で限界を決めてしまわずに、様々なことに積極的にチャレンジし、本気で取り組むことで、1つでも多くの「未見の我」に出会える高校生活にしてほしいと思います。



午後には「第77回入学式」が行われ、359名の新入生が本校の仲間となりました。新入生代表挨拶では、「西高のモットーである『自主自立』を意識し、自ら考え、自ら学ぶことのできる人になりたい」また「将来、社会で生きていく力を養うために、この3年間積極的に物事に取り組み、努力し続けたい」と力強く誓いの言葉が述べられました。入学式

終盤には、管弦楽部による校歌紹介、歓迎の祝演奏が披露され、美しい音色が響き渡りました。新入生の今後の活躍を期待します。ご臨席賜りました保護者の皆様に感謝申し上げます。

2 UN Spring Camp・新入生オリエンテーション

本校では例年2泊3日の新入生合宿を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度も昨年度に引き続き、校内において「UN Spring Camp」を実施しました。進路指導主事講話、各教科からのガイダンスにより高校での学習方法や授業への取り組み方などについて学び、西高生としての一歩を踏み出しました。最終日の新入生オリエンテーションでは、生徒会や学校行事の紹介、部活動VTR、MAや書道部によるパフォーマンス、部活動ユニフォームの紹介等が行われました。コロナ禍の中、執行部の生徒たちが様々な工夫を凝らし、本校の活気や先輩たちからの熱いメッセージが伝わるステージを創り上げました。コロナ禍との共生の時代、創意工夫を凝らした新たな伝統行事がまた一つ、新入生に受け継がれました。新入生の皆さん、1日も早く西高に慣れ、西高ライフを思う存分充実させてください。



部活動紹介VTR



書道部パフォーマンス



部活着ランウェイ